

昌一金属支部機関紙「すくらむ」より転載

# 地域統一闘争で春闘を敢然と闘い抜く 闘って団結かため闘争勝利!

我が支部では二月二十一日から各職場集会を重ね、どういふ春闘として闘うのか、要求金額・配分・職場要求などを議論してきました。

そして三月二日に要求大会を開催して、港合同統一要求金額二万円、配分、一律一〇〇%を掲げ、支部が一丸となって今春闘を闘い抜くことを決定しました。

あわせて今春闘で労働組合が闘うべき重要なテーマとして①戦争・改憲阻

止。②下水道をはじめ地下鉄・バス、水道などの大阪市丸ごと民営化反対。③原発再稼働反対。④安倍政権の「働き方改革」Ⅱ総非正規化と解雇自由の労働法制解体と対決。⑤大幅賃上げ獲得。この五つの柱を打ち立て、闘う労働組合の旗を高く掲げて地域に打って出ました。



キの値上げ。関電ではいくつかの製品で公募や入札が予定されていること。九州ではメインの製品が他社にもやらせようとしていたり、他にもいくつ



しかし執行部は、各職場ともに人手不足の中で

かの製品でコストダウン要請があり、応えなければ〇になる。昨年末、全国の電力を回ったが良い話が無く、逆に良い話はないかと聞き返される状況。経営としては現状維持が精一杯として、千円回答を出してきました。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



遣の繰りして職場を回していること、厚生年金を始めた様々な値上げで労働者の生活が圧迫していること、経営は毎年同じ理由で売上げだけで判断して低額回答を押しつけてきたこと、経営努力が見えないと反論しました。

この千円回答に対して執行部では「なめている」



「誠意がない」と判断して、支部では初めてハチマキを締めて構内集会や構内デモをやり切り、怒りを示して闘いました。

その後、全組合員が粘り強く闘い抜いたからこそ、最終的に手当に逃がすことなく基本給で二千円の上積み回答を勝ち取りました。



今春闘では当たり前にハチマキをまくという労働組合の姿を個々の組合員が感じ、会社にも見せ、周辺の住民や未組織の労働者にも労働組合の存在と闘いを見せたのは、金額ではない、今後につながる大きな成果だと思います。

支部では設定された統



一交渉日の中で集約しましたが、地域では春闘はむしろこれからです。

引き続き気を緩めず、春闘総括の職場集会を踏まえて、まずは第八十八回港地域メーデーの大成功に向けて団結して闘っていきましょう。

昌一金属支部教宣部

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！